

6 年	社会	「世界に歩み出した日本」		8 時間
単元 の 目 標	① 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を契機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解することができる。 ② 我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することができる。 ③ 我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて、主体的に追究し、解決しようとしている。		【方向目標】 学習過程や指導の方向性。質的な評価、自己評価。	
単元末における具体的な児童の姿	A 自分の意見を持ち、積極的に他者の意見と比較したり参考にしたしたりして、明治新政府が整えた政治の仕組みや世の中の様子の変化を適切に表現することができる。 B 自分の意見を持ち、教員の手立てをもとに他者の意見と比較したり参考にしたしたりして、明治新政府が整えた政治の仕組みや世の中の様子の変化を表現することができる。 C 教員の支援のもと、他者の意見を参考にして自分の意見を持ち、明治新政府が整えた政治の仕組みや世の中の様子の変化を表現することができる。	実際	・ペアやグループになって、活発に自分の意見を伝え、互いに意見を交わしていた。特に、A 層は、積極的に他児童の意見と比べたり参考にしたりする姿が見られた。B 層は、A 層の語りかけを待っている様子も見られた。 ・自分に合ったまとめ方を選択し、A 層～C 層まで自分の言葉でまとめることができていた。 ・全員が自分なりにまとめることはできたが、表現が乏しい児童も多い。 ・グループ内ではよく話し合っていたが、他のグループと交流する様子はあまり見られなかった。	
個人間差異		手だて		効果
① 学習スタイルの違い		①・1人でやる、グループでやるなど自分に合ったやり方を選択できるようにする。 ・「個別の問い」を友達と共有する時間を与え、自分が立てた問いに自信をもたせる。さらに、不安がある児童はグループで取り組むことができるように支援する。 ・学習の見通しを立てたり、自分の言葉でまとめたりすることが苦手な児童には、補助ワークシートを用意する。		◎ △ ◎
② 興味・関心の違い		②・興味関心に応じて、調べる順番の配分を事前に選択できるようにする。 ・毎時間の振り返りをよく書いている児童のノートを印刷して毎時間ごとに配布し、調べ学習に対するモチベーションを高め、知識の定着に差が開かないようにする。		△ ◎

成果	・実態に合わせて補助ワークシートを準備したことで、児童は個別に学習を進めることができ、教師は一人一人の学習を見取ることができた。 ・調べる時間やまとめる時間を設定して学習を進めたことで、児童自身が時間を考慮しながら学習する習慣ができた。 ・自分の得意な分野への学習について、前向きに学習する姿が見られた。 ・授業の流れをパターン化したことで、児童が一人で学習を進められる場面が増え、必要とする児童に支援をすることができた。	課題 ・音声と文字が一致しない児童のワークシートには、言葉の意味を調べ、自分の言葉でまとめるよう流れを明示する工夫が必要だった。 ・言葉の意味を理解していないところが見られ、問題の意味を理解していないことがあったことや、成果物の表現の実態から、語彙を増やすために国語など他教科での指導の改善も必要と分かった。 ・誤字脱字の指導を継続して行い、確かな力として定着させる指導の改善が必要。 ・表現力を高めるために、まとめる段階の前に意図的に交流する機会を設けると良い。
----	--	--

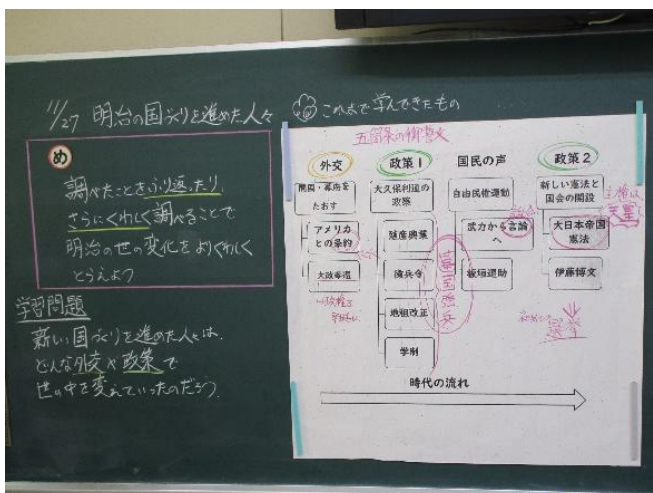
・グループで学習する方法を選んだ児童



・補助ワークシートを使ってまとめる児童



・学習問題



・個別の問い

